

## 近代先島諸島におけるマラリア有病地の空間表現：宮古島の例 Geovisualization of Endemic Malaria in Sakishima Islands in the First Half of the 20th Century: A Case of the Miyako Isl

鈴木 厚志<sup>1\*</sup>, 崎浜 靖<sup>2</sup>

SUZUKI, Atsushi<sup>1\*</sup>, SAKIHAMA, Yasushi<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 立正大学, <sup>2</sup> 沖縄国際大学

<sup>1</sup>Rissho University, <sup>2</sup>Okinawa International University

20世紀前半の先島諸島においては、年間1,000人から2,000人のマラリア患者の発生が報告されている。これまでの研究から、先島諸島のマラリア有病地は、高島と呼ばれる大陸性の島もしくは火山島において、起伏があり、水系の発達した地域に多く分布したことが明らかにされている。そもそも、マラリア媒介蚊であるコガタハマダラカは、表層を非石灰岩の地質が広く覆う場所や、水たまりや水田が形成されやすい湿地帯を好み、こうした地理的環境を有する地域が有病地となった。

本研究は、20世紀前半の先島諸島におけるマラリア有病地の地理的環境を高精度DEMと旧版地形図や史料を組み合わせ、復元し、地形や土地利用や集落形態との関係から考察を行った。本研究の事例地域は、宮古島市東仲宗根添集落とする。宮古島はほぼ全域が隆起石灰岩に覆われているが、事例地域の表層地質は粘土質堆積物であり断層地形の影響も受け、当時の水はけは良くなかった。

キーワード: 先島諸島, マラリア有病地, 地理的環境, 空間表現

Keywords: Sakishima islands, Endemic Malaria, Geographical Environment, Geovisualization